

2025年12月21日 ルカ2：1－21

説教題 「すべての民に与えられる大きな喜び」

【今日の説教から】

「全世界の人口調査をせよとの勅令」。ローマ皇帝の権力は絶大でした。「全世界の」人々が一人の王の命令一下で動き出すのです。4500万人とも数えられる帝国ローマを動かす者は世界を動かす。皇帝はそういう権力をもって世界に対して勅令を出しました。

ヨセフとマリヤもその動きの中に翻弄される人たちでした。ナザレからベツレヘム、それは150kmにも及ぶ旅で標高差もあり、徒歩では1週間もかかる道のりです。マリヤはすでに身重になっており、行きの道のりは大丈夫でしたが、「ところが」実家ナザレに帰る前、ヨセフの本籍地、ダビデの町ベツレヘムにいる間に産気づいてしまいました。

しかし私たちは全ての舞台が整ったということが分かるのです。イエス様は「主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」との御使いの言葉の通りにダビデの町で生まれるのです。ダビデの町ベツレヘム(パンの家という意味)。それはイスラエルが飢饉のときモアブに逃れた後夫も息子も失ったナオミがルツと共に戻った町、ルツはボアズと出会い、ダビデの祖父オベデが生まれたのです。

神様は全世界を牛耳る帝国の皇帝をも手のひらに載せ、ご自分の御業をなさいます。神様のわざは全て時にかなって美しい。私たちも恐れを喜びに変えてくださる神様のすべての御業を信じて讃美する人生が与えられているのです。

序 ナオミとルツの物語

ルツ記 1:1 さばきづかさが世を治めているころ、国に飢きんがあったので、ひとりの人がその妻とふたりの男の子を連れてユダのベツレヘムを去り、モアブの地へ行ってそこに滞在した。

1:2 その人の名はエリメレク、妻の名はナオミ、ふたりの男の子の名はマロンとキリオンといい、ユダのベツレヘムのエフラタびとであった。彼らはモアブの地へ行って、そこにおったが、

1:3 ナオミの夫エリメレクは死んで、ナオミとふたりの男の子が残された。

1:4 ふたりの男の子はそれぞれモアブの女を妻に迎えた。そのひとりの名はオルパといい、ひとりの名はルツといった。彼らはそこに十年ほど住んでいたが、

1:5 マロンとキリオンのふたりもまた死んだ。こうしてナオミはふたりの子と夫とに先だたれた。

1:6 その時、ナオミはモアブの地で、主がその民を顧みて、すでに食物をお与えになっていることを聞いたので、その嫁と共に立って、モアブの地からふるさとへ帰ろうとした。

1:7 そこで彼女は今いる所を出立し、ユダの地へ帰ろうと、ふたりの嫁を連れて道に進んだ。

1:8 しかしナオミはふたりの嫁に言った、「あなたがたは、それぞれ自分の母の家に帰って行きなさい。あなたがたが、死んだふたりの子とわたしに親切をつくしたように、どうぞ、主があなたがたに、いつくしみを賜わりますよう。

1:9 どうぞ、主があなたがたに夫を与え、夫の家で、それぞれ身の落ち着き所を得させられるように」。こう言って、ふたりの嫁に口づけしたので、彼らは声をあげて泣き、

1:10 ナオミに言った、「いいえ、わたしたちは一緒にあなたの民のところへ帰ります」。

1:11 しかしナオミは言った、「娘たちよ、帰って行きなさい。どうして、わたしと一緒に行こうというのですか。あなたがたの夫となる子がまだわたしの胎内にいると思うのですか。

1:12 娘たちよ、帰って行きなさい。わたしは年をとっているので、夫をもつことはできません。たとい、わたしが今夜、夫をもち、また子を産む望みがあるとしても、

1:13 そのためあなたがたは、子どもの成長するまで待っているつもりなのですか。あなたがたは、そのために夫をもたずにいるつもりなのですか。娘たちよ、それはいけません。主の手がわたしに臨み、わたしを責められたことで、あなたがたのために、わたしは非常に心を痛めているのです」。

1:14 彼らはまた声をあげて泣いた。そしてオルバはそのしゅうとめに口づけしたが、ルツはしゅうとめを離れなかった。

1:15 そこでナオミは言った、「ごらんなさい。あなたの相嫁は自分の民と自分の神々のもとへ帰って行きました。あなたも相嫁のあとについて帰りなさい」。

1:16 しかしルツは言った、「あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。

1:17 あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます。もし死に別れでなく、わたしがあなたと別れるならば、主よ、どうぞわたしをいくえにも罰してください」。

1:18 ナオミはルツが自分と一緒に行こうと、固く決心しているのを見たので、そのうえ言うことをやめた。

1:19 そしてふたりは旅をつづけて、ついにベツレヘムに着いた。彼らがベツレヘムに着いたとき、町はこぞって彼らのために騒ぎたち、女たちは言った、「これはナオミですか」。

1:20 ナオミは彼らに言った、「わたしをナオミ（楽しみ）と呼ばずに、マラ（苦しみ）と呼んでください。なぜなら全能者がわたしをひどく苦しめられたからです。

1:21 わたしは出て行くときは豊かでありましたが、主はわたしをから手で帰されました。主がわたしを悩まし、全能者がわたしに災をくださったのに、どうしてわたしをナオミと呼ぶのですか」。

1:22 こうしてナオミは、モアブの地から帰った嫁、モアブの女ルツと一緒に帰ってきて、

大麦刈の初めにベツレヘムに着いた。

2:1 さてナオミには、夫エリメレクの一族で、非常に裕福なひとりの親戚があつて、その名をボアズといった。

2:2 モアブの女ルツはナオミに言った、「どうぞ、わたしを畑に行かせてください。だれか親切な人が見当るならば、わたしはその方のあとについて落ち穂を拾います」。ナオミが彼女に「娘よ、行きなさい」と言ったので、

2:3 ルツは行って、刈る人たちのあとに従い、畑で落ち穂を拾ったが、彼女ははからずもエリメレクの一族であるボアズの畑の部分にきた。

2:4 その時ボアズは、ベツレヘムからきて、刈る者どもに言った、「主があなたがたと共におられますように」。彼らは答えた、「主があなたを祝福されますように」。

2:9 人々が刈りとっている畑に目をとめて、そのあとについて行きなさい。わたしは若者たちに命じて、あなたのじゃまをしないようにと、言っておいたではありませんか。あなたがかわく時には水がめのところへ行つて、若者たちのくんだのを飲みなさい。

2:10 彼女は地に伏して拝し、彼に言った、「どうしてあなたは、わたしのような外国人を顧みて、親切にしてくださるのですか」。

2:11 ボアズは答えて彼女に言った、「あなたの夫が死んでこのかた、あなたがしゅうとめにつくしたこと、また自分の父母と生れた国を離れて、かつて知らなかった民のところにきたことは皆わたしに聞えました。

2:12 どうぞ、主があなたのしたことに報いられるように。どうぞ、イスラエルの神、主、すなわちあなたがその翼の下に身を寄せようとしてきた主からじゅうぶんの報いを得られるように」。

2:13 彼女は言った、「わが主よ、まことにありがとうございます。わたしはあなたのはしためのひとりにも及ばないのに、あなたはこんなにわたしを慰め、はしためにねんごろに語られました」。

2:20 ナオミは嫁に言った、「生きている者をも、死んだ者をも、顧みて、いつくしみを賜わる主が、どうぞその人を祝福されますように」。ナオミはまた彼女に言った、「その人はわたしたちの縁者で、最も近い親戚のひとりです」。

4:9 ボアズは長老たちとすべての民に言った、「あなたがたは、きょう、わたしがエリメレクのすべての物およびキリオンとマロンのすべての物をナオミの手から買いとった事の証人です。

4:10 またわたしはマロンの妻であつたモアブの女ルツをも買って、わたしの妻としました。これはあの死んだ者の名を起してその嗣業を伝え、死んだ者の名がその一族から、またその郷里の門から断絶しないようにするためです。きょうあなたがたは、その証人です」。

4:11 すると門にいたすべての民と長老たちは言った、「わたしたちは証人です。どうぞ、主があなたの家にはいる女を、イスラエルの家をたてたラケルとレアのふたりのようにされますよう。どうぞ、あなたがエフラタで富を得、ベツレヘムで名を揚げられますように。

4:12 どうぞ、主がこの若い女によってあなたに賜わる子供により、あなたの家が、かのタマルがユダに産んだペレヅの家のようにになりますように」。

4:13 こうしてボアズはルツをめとって妻とし、彼女のところにはいった。主は彼女をみごもらせられたので、彼女はひとりの男の子を産んだ。

4:14 そのとき、女たちはナオミに言った、「主はほむべきかな、主はあなたを見捨てずに、きょう、あなたにひとりの近親をお授けになりました。どうぞ、その子の名がイスラエルのうちに高く揚げられますように。

4:15 彼はあなたのいのちを新たにし、あなたの老年を養う者となるでしょう。あなたを愛するあなたの嫁、七人のむすこにもまさる彼女が彼を産んだのですから」。

4:16 そこでナオミはその子を取り、ふところに置いて、養い育てた。

4:17 近所の女たちは「ナオミに男の子が生れた」と言って、彼に名をつけ、その名をオベデと呼んだ。彼はダビデの父であるエッサイの父となった。

4:18 さてペレヅの子孫は次のとおりである。ペレヅからヘヅロンが生れ、

4:19 ヘヅロンからラムが生れ、ラムからアミナダブが生れ、

4:20 アミナダブからナシオンが生れ、ナシオンからサルモンが生れ、

4:21 サルモンからボアズが生れ、ボアズからオベデが生れ、

4:22 オベデからエッサイが生れ、エッサイからダビデが生れた。

イザヤ 9:1 しかし、苦しみにあった地にも、やみがなくなる。さきにはゼブルンの地、ナフタリの地にはずかしめを与えられたが、後には海に至る道、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤに光栄を与えられる。

9:2 暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。

9:3 あなたが国民を増し、その喜びを大きくされたので、彼らは刈入れ時に喜ぶように、獲物を分かち時に楽しむように、あなたの前に喜んだ。

皆様おはようございます。そしてクリスマス、おめでとうございます。

明日は冬至です。朝は明けるのが遅く、夕はすぐに暗くなる。暗闇の支配する時間が長くなるだけ長くなりましたが、ようやく昼の力が増し加わっていきます。

イザヤ 9:1 しかし、苦しみにあった地にも、やみがなくなる。さきにはゼブルンの地、ナフタリの地にはずかしめを与えられたが、後には海に至る道、ヨルダンの向こうの地、異邦人

のガリラヤに光栄を与えられる。

9:2 暗やみの中に歩んでいた民は大いなる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った。

9:3 あなたが国民を増し、その喜びを大きくされたので、彼らは刈入れ時に喜ぶように、獲物を分かち時に楽しむように、あなたの前に喜んだ。

ヨハネ 8:12 イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」。

ヨハネ 1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は初めに神と共にあった。

1:3 すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

1:4 この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。

1:5 光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。

1:6 ここにひとりの人があって、神からつかわされていた。その名をヨハネと言った。

1:7 この人はあかしのためにきた。光についてあかしをし、彼によってすべての人が信じるためである。

1:8 彼は光ではなく、ただ、光についてあかしをするためにきたのである。

1:9 すべての人を照すまことの光があって、世にきた。

1:10 彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。

1:11 彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった。

1:12 しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

3:18 彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。

3:19 そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。

3:20 悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない。

3:21 しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。

光り輝くクリスマスの恵みに感謝いたします。私たちに差し込む光は、主イエスキリストの命の贖いによる赦しと永遠の命の輝きであり、スイッチを消してしまえばむなくしく光らないイルミネーションの光とは違います。この光は信じる人に対して永遠に輝き続けるのです。

イスラエルのユダのベツレヘムにナオミという人がいました。

ベツレヘム、それはパンの家という名であり、もともと食べ物が豊富な所でしたが、この時に飢饉が起こり、エリメレクとナオミと二人の息子は食べ物のあるモアブ後に移り住むこととなりました。夫がその地でなくなり、ナオミと二人の息子が残されました。二人の息子はその地で妻を迎えました。しかし十年ほどして二人の息子は亡くなりました。

1:6 その時、ナオミはモアブの地で、主がその民を顧みて、すでに食物をお与えになっていることを聞いたので、その嫁と共に立って、モアブの地からふるさとへ帰ろうとした。

1:7 そこで彼女は今いる所を出立し、ユダの地へ帰ろうと、ふたりの嫁を連れて道に進んだ。

1:8 しかしナオミはふたりの嫁に言った、「あなたがたは、それぞれ自分の母の家に帰って行きなさい。あなたがたが、死んだふたりの子とわたしに親切をつくしたように、どうぞ、主があなたがたに、いつくしみを賜わりますよう。

兄嫁は去っていましたがもう一人の嫁は決して義母のもとを去ろうとはしませんでした。

1:16 しかしルツは言った、「あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。

1:17 あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます。もし死に別れでなく、わたしがあなたと別れるならば、主よ、どうぞわたしをいくえにも罰してください」。

そして彼女たちがベツレヘムに戻ると、かつての友が彼女を訪ねました。するとナオミは言いました。

1:20 ナオミは彼らに言った、「わたしをナオミ（楽しみ）と呼ばずに、マラ（苦しみ）と呼

んでください。なぜなら全能者がわたしをひどく苦しめられたからです。

1:21 わたしは出て行くときは豊かでありましたが、主はわたしをから手で帰されました。主がわたしを悩まし、全能者がわたしに災をくだされたのに、どうしてわたしをナオミと呼ぶのですか」。

私たちもまた、順風満帆の時もあれば逆風の時もあり、幸せだったころを懐かしくまぶしく振り返り、あの時はよかったと振り返ることがあるでしょうか。今は荒み、落ちぶれ、あの頃に戻りたいと思えども、時を巻き戻すことはできません。

しかし本当に神様を信じる者にとって、神様は再び喜びをもたらしい下さると信じることは決してできないのでしょうか。

いえ、神様は私たちと共にいて、不可能を可能にして、見捨てられているようなものに光を当て、大きな役割を与え、大きな喜びで満たし、傲慢なるものを引き下ろし、優しく温かい国をもたらされるということを信じるのが私たちのクリスマスなのではないでしょうか。主が語られたことは必ず実現すると信じ切った人は何と幸いなのでしょう。

失意の地モアブで。しかしそこは失意の地であったかもしれませんが、「七人のむすこにもまさる」実の娘にもまさる素晴らしい嫁ルツが与えられたのです。

そしてボアズとの出会いがありました。ルツが落穂拾いに向かったところ、そこは「図らずも」最も近い親戚のボアズの畑だったのです。

私たちが図っても図ってもうまくいかない失意の時、神様は着々にご自分の恵みの計画を推し進めておられます。私たちは「図らずも」と言いますが、すべては神様のご計画の中に導かれているのです。やはりナオミはナオミ（楽しみ）、彼女を主は喜び樂ませてくださるのです。

ピリピ 4:6 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

4:7 そうすれば、人知ではどうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであらう。

義母のために必死に働くルツを見ている人がいました。

2:8 ボアズはルツに言った、「娘よ、お聞きなさい。ほかの畑に穂を拾いに行ってははいけません。またここを去ってはなりません。わたしのところで働く女たちを離れないで、ここにいなさい。

2:9 人々が刈りとっている畑に目をとめて、そのあとについて行きなさい。わたしは若者たちに命じて、あなたのじゃまをしないようにと、言っておいたではありませんか。あなたがかわく時には水がめのところへ行って、若者たちのくんだのを飲みなさい」。

2:10 彼女は地に伏して拝し、彼に言った、「どうしてあなたは、わたしのような外国人を顧みて、親切にしてくださるのですか」。

2:11 ボアズは答えて彼女に言った、「あなたの夫が死んでこのかた、あなたがしゅうとめにつくしたこと、また自分の父母と生れた国を離れて、かつて知らなかった民のところに来たことは皆わたしに聞えました。

2:12 どうぞ、主があなたのしたことに報いられるように。どうぞ、イスラエルの神、主、すなわちあなたがその翼の下に身を寄せようとしてきた主からじゅうぶんの報いを得られるように」。

神様は着々と計画しておられます。

エレミヤ 29:10 主はこう言われる、バビロンで七十年が満ちるならば、わたしはあなたがたを顧み、わたしの約束を果し、あなたがたをこの所に導き帰る。

29:11 主は言われる、わたしがあなたがたに対していただいている計画はわたしが知っている。それは災を与えようというのではなく、平安を与えようとするものであり、あなたがたに将来を与え、希望を与えようとするものである。

29:12 その時、あなたがたはわたしに呼ばわり、来て、わたしに祈る。わたしはあなたがたの祈を聞く。

29:13 あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、

29:14 わたしはあなたがたに会うと主は言われる。わたしはあなたがたの繁栄を回復し、あなたがたを万国から、すべてわたしがあなたがたを追いやった所から集め、かつ、わたしがあなたがたを捕われ離れさせたそのもとの所に、あなたがたを導き帰ろうと主は言われる。

ヘブル 12:4 あなたがたは、罪と取り組んで戦う時、まだ血を流すほどの抵抗をしたことがない。

12:5 また子たちに対するように、あなたがたに語られたこの勧めの言葉を忘れて、／「わたしの子よ、／主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。



12:6 主は愛する者を訓練し、／受け入れるすべての子を、／むち打たれるのである」。

12:7 あなたがたは訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを、子として取り扱っておられるのである。いったい、父に訓練されない子があるだろうか。

12:8 だれでも受ける訓練が、あなたがたに与えられないとすれば、それこそ、あなたがたは私生子であって、ほんとうの子ではない。

12:9 その上、肉親の父はわたしたちを訓練するのに、なお彼をうやまうとすれば、なおさら、わたしたちは、たましいの父に服従して、真に生きるべきではないか。

12:10 肉親の父は、しばらくの間、自分の考えに従って訓練を与えるが、たましいの父は、わたしたちの益のため、そのきよさにあずからせるために、そうされるのである。

12:11 すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。

12:12 それだから、あなたがたのなえた手と、弱くなっているひざとを、まっすぐにしなさい。

私たちの人生には様々なことがあります。時にそれが主の裁きと感じられるかもしれませんが。異邦の地モアブに言ってそこの娘をめとってしまった。それが主のお心に沿わなかったのかもしれない。しかし主には深いご計画があります。よもや嫁のひ孫にかの偉大な王ダビデが生まれようとは。そしてその子孫にイエス・キリストが生まれようとは。

ルカ 2:1 そのころ、全世界の人口調査をせよとの勅令が、皇帝アウグストから出た。

2:2 これは、クレニオがシリアの総督であった時に行われた最初の人口調査であった。

2:3 人々はみな登録をするために、それぞれ自分の町へ帰って行った。

2:4 ヨセフもダビデの家系であり、またその血統であったので、ガリラヤの町ナザレを出て、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

2:5 それは、すでに身重になっていたいいなづけの妻マリヤと共に、登録をするためであった。

4500万人を擁するローマ帝国の皇帝の権力はすさまじいものでした。彼の命令一下、おびたしい人たちが自分の本籍地へと移動していきました。ローマ帝国。それはすなわち時の世界そのものと言えるほどの帝国でした。彼の声一つで聞き従う。神格化もされた皇帝でしたが、彼もまた世界を想像された神様の手のひらにありました。

彼の勅令によってなされた住民登録は、ヨセフがマリヤと共にダビデの町ベツレヘムでイエス様を生むための舞台装置に過ぎませんでした。世界は皇帝のものだったのでしょうか。い

え、世界は永遠に天地を創造された神様のものです。

身重になっていた妻を連れて、やれやれ悪いタイミングで妻がかわいそうにとヨセフは思ったでしょうが、いえ、それはベストなタイミングでした。

2:6 ところが、彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、

2:7 初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。

行きはよいよい。ひれから帰って実家で出産をという思いはむなしく、「ところが」旅先で産気づいてしまいました。

いえいえ、それがベストなタイミングです。主は全て時にかなって美しいことを成されるのです。

しかしそこは粗末な場所でした。馬小屋の飼い葉桶の上。そして亡くなる時は町はずれのしゃれこうべ(骸骨)の丘の上の十字架。何とおいたわしや。しかしそれはイザヤ書53章の成就でした。

53:2 彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

2:8 さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。

2:9 すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。

2:10 御使は言った、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

2:11 きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。

ここにクリスマスの礼拝の第一号がありました。最初のクリスマス礼拝への招集です。

「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

2:11 きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」

この方こそ、私たちの恐れを取り除く方です。私たちを罪の縄目から解放されるお方です。

「きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」

きょうダビデの町に、わたしたちのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリスト！！

神様ありがとうございます。イエス様、私たちの贖いとして死ぬために生まれてくださって、本当にごめんなさい、そして本当にありがとうございます。

世界を作られた神の一人子、神ご自身が赤子としてそこにおられる、粗末な産着を着て馬小屋の飼い葉桶の上に寝ておられる。何ということでしょうか。何という謙遜、何という愛！！

天使はいてもたってもいられなくなって大讃美を捧げました。

2:12 あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである」。

2:13 するとたちまち、おびたしい天の軍勢が現れ、御使と一緒にあって神をさんびして言った、

2:14 「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。

2:15 御使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼たちは「さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか」と、互に語り合った。

2:16 そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を捜しあてた。

2:17 彼らに会った上で、この子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた。

2:18 人々はみな、羊飼たちが話してくれたことを聞いて、不思議に思った。

2:19 しかし、マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。

2:20 羊飼たちは、見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。

そして最初のクリスマス礼拝です。

「急ぎ行きて 拝まずや」

2:16 そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を捜しあてた。

2:17 彼らに会った上で、この子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた。

2:18 人々はみな、羊飼たちが話してくれたことを聞いて、不思議に思った。

2:19 しかし、マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。

2:20 羊飼たちは、見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。

全て聞いた通り！！神様のお語りになったことは必ず実現します。そして大きな喜びと賛美があるのです。

今日も恵みに満ちた神様は生きておられます。そしてご自分の恵みの御業を成していращやいます。救い主がお生まれになりました。私たちは常に救われ、恐れなく、喜びの中を進むことが出来るのです。私たちのどんな状況においてでも、そうなのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。神の御子イエス様

のお誕生、ありがとうございます。世の中に翻弄され、どうしてこんな

憂き目にと思うとき、神様の、時にかなって美しい最善の御業が進行し、

私たちは大きな喜びを頂くことを信じる事が出来ますように。主が

私たちと共にいてくださいますことをありがとうございます。あらゆる

苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家

族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス

様の御名によって祈ります。アーメン